

新型コロナウイルス感染症について 保健所からののお知らせ



保健医療政策課 (☎231-1530)

発熱などの気になる症状がある方へ

インフルエンザ流行期においては、新型コロナウイルス感染症との鑑別が難しい発熱等の症状を訴える方が大幅に増えることが予想されます。そこで、患者の皆さんに円滑に必要な医療を受けていただき、医療機関での院内感染防止を図るため、以下の点についてご注意ください。

かかりつけ医のある方

まずは、かかりつけ医に電話でご相談ください。かかりつけ医での受診が難しい場合は、発熱外来等の医療機関をご案内します。

かかりつけ医のない方、相談する医療機関に迷われる方

下記連絡先までご連絡ください。発熱外来等の医療機関をご案内します。

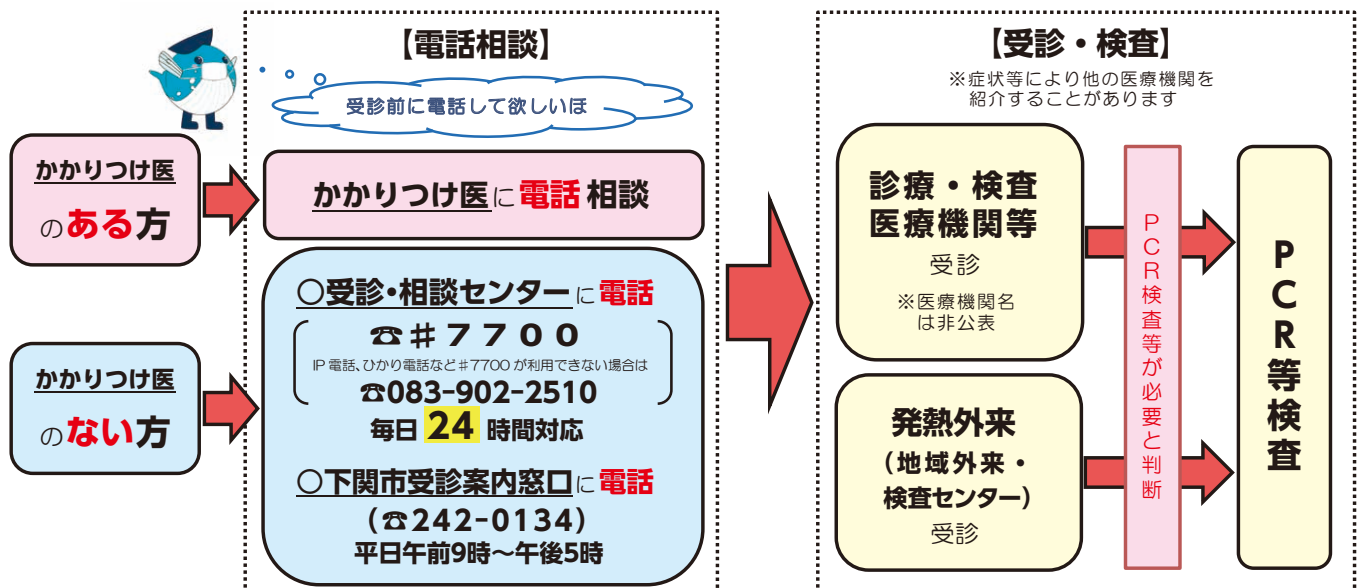
○受診・相談センター ☎#7700 (専用ダイヤル：毎日24時間対応)

※IP電話、ひかり電話など#7700を利用できない場合は083-902-2510へ

○下関市受診案内窓口 ☎242-0134 (平日午前9時～午後5時)

発熱などの気になる症状がある方の受診フロー図

≪医療機関を受診したい方の、相談から受診・検査までの流れ≫



診療時間外は下記へご相談ください(毎日24時間対応)

受診・相談センター ☎#7700

IP電話、ひかり電話など#7700を利用できない場合は ☎083-902-2510



※医療機関を受診した方が、すべてPCR検査の対象になるとは限らないのでご了承ください。

感染リスクが高まる5つの場面に注意

これまでの感染拡大の経験から、感染リスクが高い行動や場面が明らかになってきました。新型コロナウイルス感染症は、主に飛沫感染や接触感染によって感染するため、三密（密閉・密集・密接）の環境で感染リスクが高まります。このほか、飲酒を伴う懇親会等、大人数や長時間におよぶ飲食、マスクなしでの会話、狭い空間での共同生活、居場所の切り替わりといった場面でも感染が起きやすく、注意が必要です。

1

飲酒を伴う
懇親会

2

大人数や長時間の
飲食

3

マスクなしでの
会話

4

狭い空間での
共同生活

5

居場所の
切り替わり

換気を良くして
三密を避けよう！



いつでもマスク
手洗い・消毒忘れずに！

Art by iXima © Crypton Future Media, INC. www.piapro.net



※引用：内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室

コロナ禍でも医療機関で必要な受診を

① 過度な受診控えは健康上のリスクを高めてしまう可能性があります。

新型コロナウイルス感染症への感染の懸念から、令和2年4月から5月にかけての緊急事態宣言下では、集団で実施する各種健診を延期するようお願いしていました。しかしながら、宣言解除後も受診控えが続いてしまっています。過度な受診控えは健康上のリスクを高めてしまう可能性があります。

② コロナ禍でも健診や持病の治療、子どもの予防接種などの健康管理は重要です。

発熱、咳や腹痛などの症状は新型コロナウイルス感染症に限りません。それ以外の病気の可能性もあるため、必要な受診を控えると最適な治療が受けられなくなる可能性があります。定期的に飲んでいいる薬を切らすと、持病が悪化してしまう恐れがあります。持病がある方は、定期的な受診を。リハビリも可能な範囲で継続することが大切です。

③ 医療機関や健診会場では、換気や消毒でしっかりと感染予防対策をしています。

医療機関では、院内感染防止のガイドライン等に基づき、感染対策に取り組んでいます。さらに患者の皆さんにわかりやすいマークや自主的ガイドラインによる取り組みにより、しっかりした感染防止対策が行われています。

④ 健康に不安がある時は、まずはかかりつけ医・歯科医に相談しましょう。

自己判断で受診を控えることで、慢性疾患の症状悪化や、そのために新型コロナなどのウイルスに対抗できない状態になることがあります。かかりつけ医・かかりつけ歯科医に相談しながら健康や持病を管理していくことが、新型コロナウイルス対策にもとても重要です。

●掲載する内容は1月15日現在のものです。新型コロナウイルス感染症対策等により、内容を変更する場合があります。最新情報についてはホームページ等で確認するか問い合わせ先にご確認ください。